

シヨップ「臨床倫理的課題が発生するとき(三重大学)／フレームワークを使った事例検討」があった。3視点(①患者(又は代理決定者)の意志、②医学的妥当性、③社会的妥当性)から、それぞれ許容範囲、妥当な範囲であるかどうかを考え、3つの視点とも妥当範囲以上に近づくことを考えようというフレームが紹介された。

現場が疲弊して安全に間違いなくこなしている状況だからこそ、倫理的感受性を高める人づくりに取り組んでいるという横浜労災病院の報告、宮崎大学／三重大学が臨床倫理を検討した紹介事例の内容は、インパクトがあった。

今回の学習で、臨床倫理課題に着手する手がかりが示され、現場のもやもや感を突破する方策になるのではとの思いをもった。

## 2018年度医療安全分科会に参加して

東京都済生会向島病院 医療安全管理室  
医療安全管理者 松田晋也

今回のテーマは「医療安全に求められる臨床倫理的視点」でした。日常の医療安全管理業務や院内で起こる苦情の対応をしている中でこの



会場風景

倫理的視点というものに日々悩まされています。身体拘束や、DNARをはじめとした意思決定、苦情に発展してしまう医療従事者の発言や対応など医療安全管理者としては毎日のようにこの倫理的問題と向き合い、ある意味では答えの出ない問題にかなりの時間を費やしています。今回のこのテーマをみたときに日頃の悩みの解決策が見つかるのではないかと期待して参加させていただきました。参加した結果、各領域での先生方の講演を聞きながら現場での悩みと照らし合わせていくことで多くの学びを得ることができ解決のヒントを持ち帰ることができました。特にワークショップの中で行われた事例検討では、臨床倫理の3視点図である「患者の意思・医学的妥当性・社会的妥当性」のそれぞれが許容範囲に入るのか、妥当な範囲に入るのかという視点で検討していくことを学ぶことができ、これまで費やしてきた悩みの時間を大きく短縮できるものとなりました。

今年度より当院では初めて倫理委員会を立ち上げることが決まりました。活動自体はまだこれからですが今回学んだことを十分に活かしながら病院全体で倫理的問題に取り組んでいきたいと考えています。

貴重な分科会をありがとうございました。

## 支部学術集会開催報告

### 第19回茨城県支部学術集会

学術集会会長：株式会社日立製作所ひたちなか総合病院  
院長 吉井慎一

2018年11月3日(土)、つくば国際会議場において「患者・地域住民のための地域包括ケアシステム」をテーマに、第19回茨城県支部学術集会を開催いたしました。「退院支援」「医療安全」「医療の質」「薬剤管理」「地域包括ケア」をテーマとした一般演題(口演)39題、ポスター演題12題、クリティカルパス7題と幅広いテーマから数多くの応募をいただきました。当日は約350名もの参加者が集い、各職種独自の視点で展開される発表に興味深く聞き入っていました。

また、基調講演として、社会医療法人財団董仙会理事長 神野正博先生に「地域医療包括ケアシステムのこれからを考える」と題したご講演をいただき、さらに教育講演では、名古屋大学医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター病院教授 水野正明先生に「生涯支援型地域包括ケア構築に向けての取り組み」についてご講演いただきました。加えて、5名のパネリストの先生方にご参加いただき「連携における医療・看護・介護の質・安全の確保」をテーマに有意義なディスカッションを行っていただきました。

皆様のご協力のお陰で無事に会を終了できましたことを厚くお礼申し上げます。

### 第8回群馬県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構渋川医療センター  
院長 斎藤龍生

2019年1月27日(日)、群馬県前橋市の群馬県公社総合ビルにおいて、「医療の質とマネジメント～日本のへそで回そうPDCA～」をテーマに第8回群馬県支部学術集会を開催いたしました。

特別講演に国立病院機構本部企画役医療部病院支援部長の岡田千春先生をお招きし、「国立病院機構における臨床評価指標を用いた医療の質改善の取り組み」と題し、ご講演いただきました。シンポジウムは「患者・家族の想いを地域で支える」「PDCAサイクルに基づく医療の質改善」の2つの内容で総勢11名のシンポジストの先生にご登壇いただきました。一般演題は18題で、「医療の質」「地域連携・入退院支援」「医療安全」「その他」とテーマを分けてご発表いただきました。

当日は前夜の雪が残る寒い中、医師、看護師、薬剤師、事務職など、多職種251名がご参加くださり、それぞれの視点から活発にご討議いただきました。皆様のご協力をおもひ無事開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。